特集１ このまちの未来

こどもたち

未来を担う子どもたちは、
このまちの宝。
松本を好きになって、誇りをもって、
未来を切り拓いていってほしい。
このまちとともに輝いて。

本市では、子ども（キッズ）や若者（ユース）の成長を後押しする取り組みを「キッズ＆ユースデモクラシー」と名付け、「未来への投資」として、重点的に推進しています。

今、さまざまな年齢の子どもたちが集まり、仲間とともに松本のまちを知り、まちづくりを考えようと活動しています。

そして、地域の大人や若者たちが子どもたちをあたたかく見守り、学校や家庭以外で安心して活動できる居場所をつくる取り組みをしています。

自ら育つ子どもたち。それを見守るまなざし。やたくさんの手―。

生き生きと活動する姿から、松本の未来が見えてきませんか。

―もくじ―

特集１　このまちの未来　2
特集２　みんなの給食　6
子育て各種支援　8
福祉医療制度　10
食品ロス削減　11
新庁舎建設基本構想　12
狭あい道路拡幅整備事業　14
市議会６月定例会　他　15
コラムのページ　16
情報チャンネル　18
９月の相談日　39
生きがいの仕組みづくり、読者プレゼントクイズ　40

子ども自らの育ち

まつもと子ども未来委員会

「松本市子どもの権利に関する条例」に基づき、子どもたちが主体となって、自分たちが住むまちへの意識を高め、子どもたち自らがまちづくりを考えることを目的に活動する「まつもと子ども未来委員会」。

今年度第４期は、市内の小学５年生から高校２年生の34人が、学校や地域、年代を越えて集まりました。１年間の任期中には、学習会や施設見学、他都市との子ども交流事業等を行い、11月には、活動の集大成となる、まちづくりに関する市長提言を行います。こうした学校とは違う場所での社会参加や意見表明の活動を通して、このまちの未来を担う子どもたちの自主性や生きる力が高まることを期待しています。

子ども未来委員会は、市内の小学５年生から高校３年生ならどなたでも参加することができます。詳しくは、こども育成課へお問い合わせください。

今回の特集では、第４期の委員長の木島さんにお話を伺いました。

市内見学会の様子。上高地山岳ガイドの案内で、上高地を散策しました。

子ども未来委員会の活動状況はこちらをご覧ください

子ども未来委員にインタビュー

委員会に参加したきっかけは？

親から未来委員会のことを教えてもらったのがきっかけです。初めて会う人たちとの交流を経験してみたいなと思い、参加しました。

委員長としてどんなことをしていますか？

会議の中では、司会をしています。市内見学会などの活動では、みんなをまとめて、全体のチェックをしています。

今までの活動で印象に残っていることは？

５月に行った最初の市内見学会では、みんなで松本城や市街地を歩いて回り、ごみ拾いをしました。その時の一生懸命にごみを拾うみんなの真剣な表情と行動に、驚きました。

普段の会議の中ではなかなか気づくことができない、みんなの「このまちをもっとよくしたい」という熱い気持ちが見えた気がしてうれしくなりました。

これからこの会でやってみたいことは？

まだ４期は始まったばかりなので、具体的なことは、11月の松本市長への提言に向けて、これからみんなで話し合いながら決めていきます。

個人としては、今までの未来委員会でやっていないようなことが、この４期でできたらいいなと思っています。

そして、その活動が、松本市がより良いまちになるための「大きな一歩」につながればいいなと思います。

子ども未来委員会　委員長
松本秀峰中等教育学校１年
木島　凜太郎　さん

県内トップクラスの見守り体制

青少年補導委員

青少年補導委員は、松本市青少年育成センター条例に基づき、地域などからの推薦によって決まります。任期は２年。青少年の健全育成を目的に、街頭補導活動や地域での見守り、声かけなどを中心に、地域で子どもたちに寄り添う活動を行っています。

特に本市では、「愛の一声」を合言葉に、地域の大人が子どもたちを見守り、声かけを行う活動に力を入れています。29年度の補導実施回数と、活動した補導委員数（ともに延べ数）は県内最多。今年度の補導委員数は121人で、県内で２番目に多い数となっています。（長野県子ども・若者育成支援推進本部調べによる）

現在まで22年間補導委員を務める、補導委員協議会の渡辺会長にお話を伺いました。

で見守る

補導委員にインタビュー

補導委員になった経緯を教えてください

もともと子どもが好きで、何か子どもたちと関わることができればと思っていたときに、地域の補導委員さんに声をかけていただいたのがきっかけです。

活動で心掛けていることは？

補導活動は、声かけを中心に行うのですが、強制する気持ちではなく、子どもたちに寄り添う気持ちで行うことを心掛けています。

補導委員の間では、そのような気持ちを込めて、声かけでかける言葉を、「愛の一声」と呼んでいるんです。

22年間の活動を通して感じることは？

最近は、補導活動と並行して、登下校時の見守りも多くなっています。補導活動は回数も多く、大変だと感じるときもありますが、この活動が、犯罪などの抑止力になっていると実感しています。

県内トップクラスの実績は、松本の誇りだと思っています。

今後の活動は？

スマホでのコミュニケーションなど、時代とともに子ども同士の関わり方は変わってきています。補導委員の活動もそうした時代の変化に対応するために、さまざまな団体との連携が必要です。

補導委員の活動は、すぐに結果として見えるものではありません。これからも、子どもたちの目線に立った「愛の一声」を大切に、継続して活動していくことが大切だと思っています。

松本市青少年育成センター
補導委員協議会　会長
渡辺　はる美　さん

各事業に関するお問い合わせ先

- まつもと子ども未来委員会、青少年補導委員
  こども育成課（東庁舎別棟１階　☎34-3291　FAX34-3309）
- 子どもの居場所づくり推進事業
  こども福祉課（東庁舎１階　☎33-4767　FAX36-9119）

子どもの居場所づくり

地域の大人が、地域の子どもに対して、食事提供や学習支援を中心とする、団らんの場を提供する事業「子どもの居場所づくり推進事業」。庄内地区の並柳団地町会では、「なみカフェ」として月に４回程度行っています。そこでは、松本大学の学生が、学生の自主的な地域活動として加わり、町会との橋渡しは、庄内地区地域づくりセンターのインターンが行っています。

そんな、地域と学校、行政が連携した取り組みを行う、「なみカフェ」についてインターンの中島さんと松本大学の青木さんにお話を伺いました。

地域

インターンにインタビュー

「なみカフェ」との関わりを教えてください

庄内地区地域づくりセンターのインターンとして、2年前から運営に携わっています。今年の4月からは、コーディネーターという立場で、さらに深く関わるようになりました。

コーディネーターとはどのような仕事ですか？

松本大学との連携や、地域と「なみカフェ」をつなぐ役割を担っています。

最近は、今まで関わりのなかった地域の方から、協力の申し出等をいただく機会も多くなりました。そんな地域の新たな声を活動につなげることも、私の大切な仕事です。

活動して感じることは？

今年で3年目を迎え、最初は小さかった活動の輪がどんどん大きくなっていることに驚いています。地域の方が「これ使って」と、おもちゃを提供してくれたり、読み聞かせをやりたいと申し出てくれる人がいたり、活動の広がりを実感しています。

今後の活動予定は？

学生とのつながりをさらに強くしていきたいです。私の持っている情報と、学生が感じたことなどを共有できるような仕組みがつくれたらいいなと思います。

庄内地区インターン
中島　麻衣　さん

大学生にインタビュー

「なみカフェ」に参加したきっかけは？

私は大学で、社会福祉士の資格を取る勉強をしています。その中で、子どもたちに関わることを経験したいと思い、参加しました。

どんなことをやっていますか？

学習支援を中心に、遊んだり、ご飯を食べたりして子どもたちとできるだけ一緒の時間を過ごしています。

活動して感じることは？

私は昔から絵を描くことが好きでした。こどもたちにそのことを話したら、「これ描いて～」と漫画を手に持って話しかけてきてくれました。それからは絵を描くことが多くなり、今では「絵の先生」と呼ばれているんです（笑）。自分の個性で子どもとつながることができて、とてもうれしいです。

やってみたいことは？

積極的に子どもたちと関わるのはもちろんですが、地域のことをもっと知りたいと思っています。この地域の良いところや、抱える問題などを学び、地域とも関わることができたらと思っています。

松本大学
総合経営学部
観光ホスピタリティ学科４年
青木　悠里　さん

※「なみカフェ」を運営する、並柳団地町会長のインタビューは、裏表紙に掲載しています。